CIAM

CIAM（Congrès International d'Architecture Moderne、近代建築国際会議）は、建築家たちが集まり都市・建築の将来について討論を重ねた国際会議。モダニズム建築（近代建築）の展開のうえで大きな役割を担った。1928年に始まり、1959年までに各国で11回開催された。アルヴァ・アアルトは1929年にフランクフルトで開催された第2回より招待され、当時先鋭的に活躍する建築家等と交流を深め、国際的に活動するきっかけを得た。

Walter Gropius
ヴァルター・グロピウス
1883-1969

ドイツ人建築家。1919年にバウハウスを設立

- 1928年 CIAM会議でアアルトと知り合う。
  その後少なくとも1930、31、40年にアアルトと会う
- マルケリウスの友人
- 1930年にアノとアルヴァをヘルシンキ訪問、モホイ・ナジ・ラースローを紹介。
  その後、アルヴァと一緒にフランクフルトのCIAM会議に参加。
- 1937年にアメリカへ移住し、1938-41年にマルセル・ブロイヤーと協働。

Sigfried Giedion
ジークフリート・ギーディオン
1888-1968

- スイス人美術史家及び建築評論家
- CIAMの創設者及び初代書記
- コーラン・シルクによれば、CIAM初期のアアルトの最大の支持者
- 妻のカローラ・モーティオン・ウェルカーとともにアアルトの友人
- 1938年よりアメリカのハーバード大学などで客員教授

Philip Morton Shand
フィリップ・モートン・シャンド
1888-1960

イギリス人ジャーナリスト、
主に「アーキテクチュラル・レビュー」誌に執筆する批評家

- 裕福な家庭で育ち、イートン及びキングズ・カレッジを卒業。
- トイツ語に堪能で、アアルトと早い時期から友人関係を築く。
- 1933年 海外初のアアルトの展示会（フォートナム＆メイソン百貨店）の主催者。
- A.-コルビュジエ、アアルター・グロピウスの友人。
- アアルトの家具をイギリスに独占輸入販売するため、
  フィンマー社を友人G.-M.パンフリーと設立。
- 英国チャールズ皇太子の妻カミラ妃の祖父

Sven Markelius
スヴェン・マルケリウス
1889-1972

スウェーデン人建築家。アアルトの目標となる人物であり、親しい友人。家族くるみの付き合いがあった。アアルトをCIAMのメンバーに推薦した人物。戦後のスウェーデンの都市計画に大きな影響を及ぼす。

- 1920年 ダンテール・アスプルンドとイヤリア研修旅行
- 1926年 ヘルシンボリ・コンサートホール競技設計に優勝し、
  建築家としても知られる。
- 1926年 北欧旅行中のアアルトと知り合う。アアルトと頻繁に手紙や電話によって連絡を取り合う。戦争が始まると深遠になる。
- 1927年 ジャヴリでグロピウスと知り合う。
  1928年 ストックホルムの建築をグロピウスに依頼。
- 1928年 アアルトとボー・ヘニングセンをCIAMのメンバーに推薦。
- 1929年 アアルトとともにCIAM会議に参加する。
- 1931年 クンナー・ル・アスプルンド他ちとの建築家とモダニズム・マニフェスト「アクセプテラ」を共同執筆。
- 1944-54年 ストックホルム都市計画建築家。

László Moholy-Nagy
モホイ・ナジ・ラースロー
1895-1946

ハンガリー出身の彫刻家／画家／デザイナー／写真家
アルヴァが目標とした人物で、インスピレーションの源（タイポグラフィ、舞台デザイン、映画クラブ等）バウハウスのタイポグラフィ、そしてモホイ・ナジのように多くの芸術分野で活躍することは、二人にとって目標となる。

- 1920年 ヘルソンへ移住。1922年「Der Sturm」展で
  ヴァルター・グロピウスと知り合う。
- 1923年 バウハウスの教師として グロピウスに招かれ、生まれながらの教育者。
- 1938年 シカゴにニュー・バウハウスを開校。
- 1929年 フランクフルトCIAMでアアルトと知り合う
- 1931年夏 エレン・フランクとともにフィンランドを訪問。アノ/ヨモホイ・ナジの写真撮影技術に興味を持ち、彼の滞在中にその技術を学ぶ。
- 著書「Von material zu architektur（材料から建築へ）」（1932年）を
  アアルトへ贈る。

ARTEK

アルテックはアイノとアルヴァ並びに美術史家のニルス=グスタフ・ハールとマイレ・グリクセンにより1935年ヘルシンキに設立された。この会社はアアルト家具の国内外への販売だけでなく、高品質な製品を人々の暮らしに普及させ、モダニズム文化を促進することを目的としていた。アルテックはモダンアートの展示会のアレンジもしていた。社名は、モダニズムのキーワードであるアートとテクノロジーを組み合わせてアルテックとなった。アルテックの初代アートディレクターとして、アイノはインテリアデザインに集中する機会を得た。彼女はヨーロッパ旅行中に多くのアイデアを収集した。アイノはアアルトの家具を基盤にしてアルテックのモダンなデザインを作り出し、オリジナルモデルのバリエーションを拡大していった。アルテックのセレクションには良質の輸入製品も追加された。アルテックの店舗はこれまでのフィンランドにはなかったアートとインテリアデザインの発信地となっていった。その後短期間のうちにアルテックは海外とのネットワークを作り上げる。アルテックの最初の店舗はヘルシンキの中心に位置し同じビルの上階には作図のためのオフィスがあった。アルテックのスタッフはアルテック自身の展示会や商業施設に加えて、個人住宅や公共空間のインテリアを設計した。マイヤ・ヘイキンヘイモは才能あるインテリアデザイナーで、アイノの右腕として働いた。

Harry Gullichsen
ハッリ・グリクセン
1902-1954

1928年マイレ・グリクセンと結婚し、アールストロムは氏に移る。
1931年マイレの父ヴァルター・アールストロムの死に伴い、社長に就任した。
アアルト夫妻に自邸（マイレア邸）他多くの仕事を発注する実業家。

- 1936年 ユニラ社取締役会会長。
- 1938年～ノルディックユニオン銀行監査委員会メンバー。
- 1936年 ヴッヒカウスのタウンプラン、1937年 規格化住宅（AA-システム）の設計をアールストロム社からアアルトに発注。
- アールストロム社と化（ヴァルター・ユング設計）の内装を
  アイノとアルヴァに依頼し、レストラン・サウヴォイが誕生。
- コクマエンヨキラーケノ地域計画は、フィンランド初の地域計画となった。
- スニラ社 地図計画及びエ場、住宅、コトック、1936-38年、実現。
- マイレア邸、ノールマルック、1938-39年、実現。
- マスタープラン、ノールマルック、1941年、実現。

Nils-Gustav Hahl
ニルス・グスタフ・ハール
1904-1941

フランス語、英語、トイツ語を話すフィンランド人美術史家、
スウェーデン系フィンランド人コミュニティを通じてアアルトと知り合う。
1934年フィンランド初の映画クラブ「プロイェクティオ」をアアルトと共同設立。トーヴェ・ヤンソンも「プロイェクティオ」のメンバー。

- 1928年～ フィンランド／スウェーデンの雑誌に記事や批評を執筆
- ヘルシンキに家族と転居してきたアアルトとヘルシンキのコミュニティを紹介。
  レストラン・ロトンダに集うスウェーデン系フィンランド人、
  文化コミュニティで活動。画家 イングヴェ・ペック、画家 ビルイェル・カールスタット、作家 ラッペ・スニックル、画家 トルイェル・エンシゥル、マイレ・グリクセンが参加する討論グループに所属。
- アルテック初代社長。
- 1933年 アテネのCIAMにアアルトの代理で出席する。
- 1939年 現代アート社Nykytaiderの設立メンバー。
- 1941年 ソビエト・フィンランド紛争戦争で戦死。

Maire Gullichsen
マイレ・グリクセン
1907-1990

美術界に影響を及ぼしたフィンランド人の一人。
アールストロム社長兼ヴァルター・アールストロムの娘。美術を学び、パリでフェルナンレジュに師事した。ニルス・グスタフ・ハールの親しい友人。現代美術ギャラリーセヘルシンキに関設することを話し合っていた二人は、1935年にアアルトを訪ね、そこでマイレはアアルトに初めて会う。二人はアアルトに会社の共同設立を提案。アアルト夫妻の承諾で、アルテックが誕生した。

- グレーゲル・ボールソンとともに、1932年のカルフラ・イッタラ
  ガラス器製造コンペの審査員、アイノの「ボルタグリック」はこ等入賞、
  アルヴァの「Aaltoshii」は選外佳作。
  1936年、アルヴァの「Eskimoerindens skinnbuxa（サウヴィ・ペース）」案が優勝。
- 1935年 フリーアートスクール設立
- 1939年 アアルト夫妻、ハールらと現代アート社Nykytaiderを設立。
- マイレ＆ハリー・グリクセン邸内装、ヘルシンキ、1936年実現。
- マイレ邸、ノールマルック、1938-39年実現。
- ハッリ・グリクセン氏 墓地、ノールマルック、1954年、実現。

ALVAR AALTO

アルヴァ・アアルト
1898-1976
クオルタネに生まれる

AINO AALTO

アイノ・アアルト
1894-1949
ヘルシンキに生まれる

ドキュメント　ウット・オンダネン
翻　訳　中井 大仁子
編　集　岡島 三紀代

INVENTIONS PATENTS

トゥルク時代に、アアルトは革新的な発明家と呼ぶことができる何人かの人々と交流している。彼らは多くの新しい革命的な解決と方法を開発した。

Emil Henriksson
エーミル・ヘンリクソン
1886-1959

特許を取得するなど、発明者として目標となる人物。

- フィンランド人技師
- アアルトのトゥルク時代の建築技術アドバイザー。
- トイツで学ぶ
- アプロイ邸の発明者として知られる。
- 1920年代 教科トゥルクに教育住み住ま、
  ヘルシンキへ戻り、大学でメカニックとして働く。
- 最晩は美術書と絵画。

Paavo Tynell
パーヴォ・トュネル
1890-1973

フィンランド人照明デザイナー

- 1918年 彫刻家エーミル・ヴィークストロム、ヨスタ・セルラーキウス、
  装飾デザイナー エリック・O. W.エーベストロム、
  装飾デザイナー フランス・ニュカネンとともに
  照明デザイン会社ライト社設立。
- 1954年のライト社解散までデーアデザイナーを務める。
- ライト社設立まで（1920年代）にコヴァスキュラに存在していた。
- アアルトの親しい友人の一人。

Otto Korhonen
オット・コルホネン
1884-1935

アアルトレッグなどを開発した技術開発の仲間

- 1910年 共同設立の家具兼建設工場 技術ディレクター
- 1928-33年 アアルトと家具の共同開発、技術開発も行う。
- アアルトの家具開発における重要人物

Juho Tapani
ユホ・タパニ
1873-?

発明家、特許取得者

タパニ・ハウス1927
「タパニ・ハウス」でオイルフレームの金属椅子をテストする

- フィンランド人会社社長／建築部材開発者
- トゥルクの鉄筋コンクリート工場とクエオの工場のオーナー
- 1923-25年 トゥルク市評議会メンバー
- 1912年「タパニ・スラブ」特許取得。
  （後のプレキャスト・コンクリートにつながるコンクリートパネル）
  アアルト設計のトゥルクの機能化資金援助を受けたタパニ・ハウスで採用（1929）。
- 5字形建材類も特許取得
- 南西フィンランド農業協同組合ビル建設でアアルトと知り合う

RELATIONSHIP WITH JAPAN

Hikotaro & Kayoko Ichikawa
市河彦太郎・かよ子夫妻
（彦太郎：1896-1946）

- 1934-35年 在フィンランド日本公使館一等書記官
- 初代在日本フィンランド大使 グスタフ・ラムステットが、
  アルテックの事務所でアイノ＆アルヴァ・アアルトを紹介。
  アアルトが家屋建築に関する意見をすでに持っていることを知る。
- 生け花に関する意見と日本文化・生活を紹介し、9回からなる小冊子シリーズを贈る。（「ブルーノ・タウトの看書「Houses and People of Japan」は、市河夫妻からではなく、在日本フィンランド大使から贈られたもの。）
- かよ子夫人によれば、アイノは第1印象力を持ち、
  アーティストとしての繊細な色彩/材質感覚に優れる人物だった。

FINNISH BUSINESS PEOPLE

アアルトの友人の輪には、フィンランド経済に影響力を持った人物が多く含まれていた。重要なネットワークの場所は産業界のリーダーなどが集まるサークルや証券クラブだった。

Arvo Ketonen
アルヴォ・ケトネン
1888-1948

フィンランド人新聞社社長／編集長

- 1917-32年 図書によりトゥルン・サノマット新聞社社長に。
  ラテン・タイポグラフへの移行により新聞を一新し、新社屋を建設することを計画。
  新社屋設計にアアルトを指名。完成した社屋はフィンランド初の新聞社ビル（1930）
- アルヴォ・ケトネン氏 住宅兼商業ビル、トゥルク、1928年、実現せず。
- トゥルン・サノマット新聞社ビル、1928年、トゥルク、1930年竣工。

Erik Bryggman
エリック・ブリュッグマン
1891-1955

フィンランド人建築家。アアルトのトゥルク時代に多大な影響を及ぼし、
国際情勢を伝えた人物。アアルト家と親密な家族付き合いがあった。

- アアルトのトゥルク時代の親しい同僚。1923年からトゥルクに住み、住宅を設計する。
  ヨーロッパを旅し、新しい情報と問題を認識。アアルトに先んじて建築家として活躍し、
  ヨーロッパの様向について把握する。アアルトはブリュッグマンから知識や技術を吸収。
- 1923年 トゥルク市700周年記念館／第3回フィンランド博覧会をアアルトと設計。
  これた二人の敷地の共同設計となる。
- 並外れて控えめで、内気な性格とされる。
- トゥルクに転居したアアルトはすぐにブリュッグマンと親友になる。
  建築家としてアアルトと対等な関係。

Hilmer Brommels
ヒルメル・ブルンメルス
1896-?

国際的なアアルト夫妻に興味を持った人物

- フィンランド人会社社長。
- 1928-36年 エンソ・グートファイト社ベルギー支社秘書。アアルトとは頻繁する前からの知り合い。
- 1936-51年 ヨハン・パルヴィアイネン自邸製作所（サッチャッテロ）社長。
- サッチャッテロのタウンプランの設計にアルヴァを指名した。
- タウンプラン、サッチャッテロ、1942年、実現せず。
- タウンホール、招待設計競技、サッチャッテロ、1949年、実現。
- 文化センター、招待設計競技、サッチャッテロ、1950年、実現せず。

Aarne Ervi
アールネ・エルヴィ
1910-1977

フィンランド人建築家

- 1935年 ヴォープリの図書館 設計助手。
- 1942年～ フィンランド建築家協会復興事務所、規格化協会会長。

Uuno Wilhelm (William) Lehtinen
ウーノ・ヴィルヘルム（ウィッリアム）・レフティネン
1895-1975

フィンランド人森林官、実業家

- 父は材木管理人、母は苦術家。
- 1927-28年 ヒニュー＆コ フィンランド総裁事務所務官。
- 1930-40年 エンソ・グートファイト社木材部長、1946-62年社長。
- 1948-62年 メリヴェンティ社設立、社長／取締役会長。
- 1948-62年 フィンライン又社設立、取締役会長、後にアールトが船舶内装設計。
- 1965-67年 ヘルシンキのアアルト設計のレフティネン美術館は、建築許可が下りず、
  レフティネン自身が当局と交渉後譲。
- 1939年 在ニューヨーク フィンランド博事として、ニューヨーク万国博覧会で
  アアルトを支援的・精神的にサポート。
- M./フィントレーデー船舶内装、メリヴェンティ海運会社、1950-51年、実現。
- エンソ・グートファイト社 製紙工場、ハミナ、スンマ、1951-53年、実現。
- エンソ・グートファイト社／パエロ有限所住宅、ウイマハ、ユ、パエロ、1952年、一部実現。
- M./ラインマーチャント船舶内装、メリヴェンティ海運会社、1953-54年、実現。

Gösta Serlachius
ヨスタ・セルラーキウス
1876-1942

フィンランド人実業家

- 1913-1942年 林業会社G.A.セルラーキウス社社長。
- 熱心な美術愛好家、ヨスタ・セルラーキウス美術財団を設立。
  美術館建設プロジェクトを立ち上げるも、実現は彼の死後（ヨスタ・セルラーキウス美術館）。
- 1917年 マンッテ建築研修生だった若アアルトと知り合う。
- 1930年 オウルのトッピラ邸パルプ工場の全ての建築の設計をアアルトに依頼。
- 1929年 セルラーキウス社本社設計競技にアールトを招待、ペルタル・コングが優勝。

AALTO'S FAMILY

アアルト夫妻にとって家族は大きな影響を及ぼした。アルヴァは母方の祖父を尊敬していた。アルヴァの性格は祖父に似ていたようだ。父親は測量技師でありながら政治活動にも従事し、多くの同僚、友人らと交流した社会的な成功者であった。アルヴァは少なくとも同じレベルに到達することを目標としていた。

Hugo Hamilkar Hackstedt
ヒューゴ・ハミルカル・ハクステット
1837-1909

アアルトの母親となる人物

- アルヴァの母系祖父、フィンランド人森林官。
- エウィ森林学校 狩猟教師/校長。
- 様々なタイプの武器やエンジンなどを設計し、特許申請。また鉄道計画にも参加。
- 急流の被害を取り除き、キュエヨキ川アンヮランコスキなどに大大規模工事を行う。
- 1910年のユヴァスキュラ技術協会講演録の記録文に
  「かつての習慣を断ち切り、良心と優しさをもって年配者にも若い世代にも
  良き友人等」と記されも、このような人柄は孫のアルヴァにもみられる。

Johan Henrik Aalto
ヨハン・ヘンリック・アアルト
1869-1940

アアルトの設計事務所の初期の仕事獲得に大きく影響を与える。
アアルトは父を通して、ユヴァスキュラ/アラヤルヴィの決定権を持つ重要な人物と知り合う。

- アルヴァ・アアルトの父、自由にさせるがへヨアンで育った。
- 測量技師：コヴァスキュラ議会員兼フィンランド党議員（1906年 選出）
- 友人も多く、コヴァスキュラ/アラヤルヴィで家族くるみの親交のあった友人に、詩人 エイノ・レイノ、
  小説家 ユハニ・アホ、画家 アクセリ・ガッレン・カッレラがいた。
- アラヤルヴィ評議会メンバー /1918年の自動国運動の中心人物。
- 父系祖父の母、エリン・ヤコブストゥテルは「フィンランド最後の聞女」として知られる神宮治療家/予言者。
- ハメーンリンナ高等学校卒業、スウェーデン語を学ぶ。
- ヘルシンキ・ポリテク・カレッジ士女地測量を学び、1893年 卒業、1895年に測量技師補としてクオルタネに転居。

Juho Mandelin / Johanna Marsio
ユホ・マンデリン、ヨハンナ・マルシオ

アイノ・マルシオの両親。

父のユホ・マンデリンは、鉄道会社の職員。母ヨハンナとの間には13人の子どもが生まれた。
労働者階級の家庭で裕福ではなかったが、自由な精神を持つ楽しい家庭で育親とも異高目に働いた。
1888年 ヘルシンキで結婚した。水道や調理用レンジを備えたキッチンのある集合住宅へ転居する。
教育熱心で子どもを全員を学校へ行かせた。

Selma Hackstedt
セルマ・ハクステット
1867-1906

スウェーデン系フィンランド人、ヘルシンキで学び、郵便局員として働く。

- アルヴァの母
- 児童は技師と森林官、時様は教師セミナーで学ぶ
- 後フローラ女生ヨハン・ヘンリックの別荘事務所の地図作図者
- 女性運動を強く支持した。
- 子どもは人の3号、1人を欲くしてくです。子供はからアルヴァ、ヴァイノ、エイナル、セルマ。
- 現代女性のイメージ。

SWEDISH FRIENDS & "ROLE" MODELS

1920年代から1940年代にかけて、スウェーデン人建築家、文化人との接触はアイノとアルヴァ・アアルトにとって重要だった。特に二人のキャリアの初期には、スウェーデンの同像はヨーロッパや国際的な飛躍への足掛かりとなった。

Gunnar Asplund
グンナール・アスプルンド
1885-1940

スウェーデン人建築家、ストックホルム市立図書館などを設計。アアルトにとって目標となる人物

- アアルトのトゥルク時代、そして1930年代後半の建築に大きく影響を及ぼす。
- 1926年 スウェーデン旅行中のアアルトと知り合い、その友情はアスプルンドがくなる1940年まで続く。
- 1934年のイングリットとの二度目の結婚により、アアルト夫妻との関係が密接になる。
  アイノとイングリットも連絡を取り合い、戦時中、アアルトの子ども、ヨハンナとハミルカはは
  アスプルンド家に疎開した。

Viola Markelius
ヴィオラ・マルケリウス
1901-1992

アイノとの交流が深かった。

- スウェーデン人作家/彫刻家/グラフィックデザイナー
- スウェーマルケリウスの妻（1927-38年）
- 「クラルテClarté運動（国際的反戦平和運動）」を支持、「スペクトラムSpektrum」誌編集長を務める。
- ソビエト連邦の生活に興味を持ち、6か月滞をし、雰囲「Jag älskade Volodja」を著す。
  マルケリウスと離婚後、メキシコへ移住。

Sten Branzell
ステーン・ブランツェル
1893-1959

スウェーデン人建築家、フィンランド内戦に志願参加

- 1918年 ビヨルクヴィク・ヘルニクスネ＆コミュニティ設計事務所（ヴァーサ）でアアルトと同僚として出会う。
  彼を歩くこ人が少年に小説を通して民話を通ばせるようすをヨーラン・シルクが語っている。
- 1920年代 コスケ社 ガラスデザイナー。
- 妻アンナはスウェーデン在住の建築家、フィンランドのロングヌ・ホルンボリに誘れること約30年。
- 1926-44年 ヨーテボリ都市計画建築家、1944-57年 ヨーテボリ市建築家。

Gregor Paulsson
グレーゴル・ポールソン
1889-1977

スウェーデン人美術史家

- アアルトのストックホルムのコミュニティのメンバー
- 1919年「Vackrare vardagsvara（より良いものを日常の生活へ）」を出版。
  フィンランドのデザインにも大きなを影響を与える。
- 1913-16年 スウェーデン国立美術館愛記、1916-24年 同館長、1934-56年 ウプサラ大学美術史教授。
- 1932年 マイレ・グリクセンとともに、カルフラ・イッタラ ガラス器製造コンペの審査員。